



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 唐木一平 幹事 唐木 章 会報委員長 大石ひとみ 第2884回例会 2019.10.24 No.1544



2019-20年度 RI テーマ

Rotary Connects The World

ソング 我等の生業**ビジター・ゲスト紹介**

(一社) 井上井月顕彰会 会長 北村皆雄 様
 (一社) 井上井月顕彰会 副会長 平澤春樹 様
 唐澤洋祐法律事務所 所長 唐澤洋祐 様
 (株)アースプロット 代表取締役 三澤 聡 様

会長談話 唐木一平会長

10月22日、天皇陛下の即位礼正殿の儀が皇居で行われ、国の内外に「国民の幸せと世界の平和を願い、国民に寄り添い憲法に則り、日本国と日本国民統合の象徴としての務めを果たすことを誓います」と宣言されました。令和の世が穏やかで豊かに暮らせることを願われましたが、台風被害を思い皇居から赤坂御所までのパレードを延期されました。



今回の台風の雨量は予想以上に大きく甚大な被害を各地にもたらしました。長野県内でも同様です。私も仕事で10月13日午前11時に伊那を出て、いつものように午後1時には八王子に入り業務をこなす予定でした。ところが掲示板に「大月八王子間全面通行止」の道路情報が流され、大月着までにはなんとか片側車線だけでも通行可能になるのではと思ったのですが、意に反して大月で20号線に降ろされてしまいました。さて昔懐かしい道ですが、何十年も利用しておりません。狭い上に中央道を走る車両のほとんどが入ってしまったので大渋滞、その上八王子に入る大垂水峠までが土砂崩れで通行止めとなり、相模原方面へ迂回し到着できたのは午後8時でした。身も心も疲れ果て呆然としてしまいました。中央道の通行止めは10月19日昼まで続きました。運悪く19日も仕事で、午前6時に家を出て大月から河口湖経由で八王子へ入り、時間も費用も平時の倍以上掛かりました。

今回改めて開発の有難さを身に染みて感じました。陸の孤島であった伊那谷を関東、中京との交通を短時間で結び付け、経済発展の源となっている事に感謝し、今後も守り育てて後世に受け継ぐ責任を感じました。

入会式 税理士法人登内会計代表 登内豊明様
(紹介者 馬場智義会員)

1968年(S43年)3月14日生、住所伊那市手良、伊那北高校、早稲田大学商学部を卒業。ご家族は奥様と男の子が二人。高校時代の同級生です。



~~~~~  
 八十二銀行伊那支店長さんからご紹介していただきました。今後ともよろしくお願ひいたします。

**幹事報告** 別紙をご覧ください。**委員会報告** 職場例会について  
竹腰哲夫職業・社会奉仕委員長

11月14日(木)12:30~(株)テーケー様にて職場例会を開催させていただきます。皆さんご参加お願ひ致します。



**出席報告** 会員数56名 内出席免除16名  
 長欠0名 出席者29名 事前メーキャップ2名  
 出席率67.39%

**ニコニコボックス**

唐木一平、唐木 章 本日の例会に4名のお客様に  
 お越しいただきました。お食事、例会、世間話をお  
 楽しみください。

唐木一平・唐木 章 登内豊明様のご入会ありがとうございます。

赤羽弘之 登内豊明さんご入会おめでとうございませう。

また、欠席が続いてしまい申し訳ございませう。

山崎秀亮 登内さんご入会おめでとうございませう。

引き続き宜しくお願ひ致します。三澤聡さん唐澤洋祐さん楽しんでいってください。

登内豊明 宜しくお願ひ申し上げます。

本田敏和 三澤さん、唐澤さん本日はようこそおいで  
 くださいました。

山田 益 本日の講師北村皆雄さんは同級生です。

原田和愛 明日株主総会で第31期を閉めることが出  
 きます。

在籍祝 山崎秀亮

10月ゴルフコンペ入賞者 優勝竹腰哲夫 準優勝原義美 1位藤澤秀敬 2位荒木康雄 3位串原弘樹

**卓 話** ヴィジュアルフォークロア代表取締役

役 ドキュメンタリー映画監督 北村皆雄様

演題「井上井月顕彰会とその活動」

(紹介者 唐木一平会長)



井上井月は放浪・漂泊の俳人と言われる。幕末から明治にかけて信州の伊那谷にひょっこりやってきて、30年余を村の家々を訪ねて暮らし、66歳で野垂れ死に同然に死んでいった。残された俳句(発句)は1800、一宿一飯のお礼の挨拶句のほか、伊那谷の生活風景や己の心の陰りを詠んだものも多い。子規に先駆ける近代俳句の先駆者との評価もある。

井月が世に出たのは、芥川龍之介とその侍従医で俳人・下島空谷(本名:勲 伊那出身)による。下島勲が『井月の句集』(1921年・大正10年)を芥川の勧めで出版、それを受け継いで、高津才次郎・下島勲共編『漂泊俳人井月全集』(1930年・昭和5年)が世に出た。山頭火はこれを手に「井月句集を読む、おゝ井月よ」と感嘆している。それ以降も伊那の井月愛好家らは、大正、昭和、平成と90年以上に渡って埋もれた井月句や書簡を発掘してきた。一般社団法人 井上井月顕彰会(堀内功初代会長)は、そうしたバラバラだった研究者を一つの組織に統合しようと、120人の会員を集めて2008年(平成20年)に発足した。

会の目標は大きく二つに集約されてきた。

- 1、井月の基本的な文献を整えること。
- 2、井月を世に広く出すこと。

1については『井月全集』四版(2009年)、『井月全集』五版(2014年)を相次いで発刊し、新たに発見された新句や新資料を追加していった。竹入弘元解説『井月編 俳諧三部集』(2012年)は、井月が全国を行脚して集めた諸家俳諧集「越後獅子」「家づと集」「余波の水くき」の三冊を、自筆原文と解説文とを同じ頁の上下に見やすくして載せている。これを見れば井月が放浪で付き合い合ってきた俳人がわかる。江戸、京都では、当代一流の俳諧師との交流がある。『井月日記』は、井月最晩年の360日余の日記で、井月を泊めた家100軒、食事を提供した家201軒の名前が記されている。宮原達明『漂白俳人 井月の日記』(ほおずき書房)は、日記から井月の実像を探っている。北村皆雄『俳人井月 幕末維新 風狂に死す』(岩波全書)は井月の謎を、幕末維新の時代

と重ねて解き明かそうとしている。『井上井月真筆集』、矢島井聲、春日愚良子らの研究書もあり、井月研究の基礎資料は井月顕彰会の手でほぼ整ったといえよう。会は、井月研究の総決算と言うべき『新編井月全集』の編集を現代かなづかいに改変して新たに進め、一昨年9月に出版した。これらについては、ほぼ実現されたと考える。

2、井月を世に広く出すことについては、2008年(平成20年)から4年かけて映画『ほかいびと』(主演:田中泯、監督:北村皆雄)を、顕彰会が総力で完成させたことがあげられる。700人近い市民の寄付、数百名の地元民出演で盛り上がり、最初の伊那の映画館での上映では、連日大勢の熱気に溢れた。その後、東京、大阪を始め全国上映、海外でもパリの日仏会館大ホール、ドイツ、中国などで行われ、2016年のミラノ国際博覧会(ミラノ万博)でも、『ほかいびと』の短縮版が上映された。井月の認知度は高まった。フランスで映画スタッフにより「漂泊の日々-井月俳句一〇九」も出版された。

『上伊那の祭りと行事30選』(2008~2012年)を、企画「上伊那広域連合」を、文化庁地域活性化事業として完成させた。

2014年(平成26年)、伊那市と組んで『井月展示室』(創造館内)も完成。伊那市の委託を受けて取り組んでいる『千両千両!井月さんまつり』も、今年度で7回を数える。井月の生きた時代を通して地域の歴史を見直そうと、幕末維新のシンポジウムや様々な催しを開いている。並行して東京でも3月10日の井月の命日前後に、『井月忌の集い』(後援:伊那市 伊那市教育委員会)を開いている。14人の選者、150人の参加者を受け、事前投句や当日投句、放浪や風土をテーマにした映画などを上映している。今年度で7回目を迎えた。二つの催しを通して伊那と東京の交流が、車の両輪のように回り始めたかと願っている。

地元での地道な催しもある。市民対象の「井月講座」もすでに6年。井月句碑建立も73を越す。

最近、顕彰会として取り組み始めたのは、井月自筆の句や書簡の収集である。家の世代交代で散失いちじるしい資料を、井月展示室への寄託、寄贈、購入を含めて動き出した。東京では地元出身者に「ふるさと納税」を働きかけ、その一部を井月の活動に使わせてもらっている。井月顕彰会は、郷土史「伊那路」、俳句雑誌「みずど」、地元の新聞、地元ケーブルテレビ局との提携・協力で、一丸となって地域の活性化をしようと取り組んでいるところである。